

平成 14 年第 4 回定例会(第 5 日 12/11)

17 時 03 分開議

- 議長(千葉満) 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第 1 の一般質問を継続します。

長谷川大議員。(拍手)

[長谷川大議員登壇]

- 長谷川大議員 平成 15 年度の予算編成について、基本的な考え方を伺いたいと思います。

[助役登壇]

- 助役(砂川俊哉) 平成 15 年度予算編成につきましてお答えをいたします。

船橋市の平成 13 年度の普通会計決算でございますが、これは財政収支上は、平成 12 年度に引き続きまして実質単年度収支黒字を確保いたしております。ただ、その実態は病院事業会計と中央卸売市場事業会計から多額の繰入金を行っておりますし、また、臨時財政対策債も発行いたしております、こういったことによって財源不足を補ったという結果でございます。

むしろ歳入の中心をなしております市税収入につきましては、昨今の景気低迷を反映いたしまして、多額の歳入欠陥が生じたところでございます。さらに、これは平成 14 年度につきましても、市税収入はむしろ 13 年度以上に落ち込むことが見込まれております。そのほか利子割交付金ですとか、地方消費税交付金等の税外収入につきましても厳しい状況にあるという状況です。今後もこうした状況が続くであろうというふうに考えております。

こうした状況でございますので、今、平成 15 年度予算編成を行っておりますけれども、大変厳しいものがあるというふうに予想しております。歳入増が見込めないという現状におきましては、とりわけ歳出削減が求められるところでございまして、平成 15 年度予算編成作業におきましては、物件費、補助費など、あるいは特別会計等に対する経常的な繰出金なども、経常経費を抑制するということが必要であるというふうに考えておりますし、政策的な経費につきましても、これは市民のニーズを的確に把握

した上で、その行政効果を十分に検討いたしまして、効率的、重点的な配分を行う必要があるというふうに考えております。

特に、来年度は中核市移行、それから保健所設置という大きな事業を控えておりまして、本市にとりましては大変重要な節目の年でございますので、これらの関連施策を最重要課題として取り組んでまいりたいと考えております。

また、例えば平成14年度予算編成時に行いました敬老祝い金制度の見直しに見られますように、所期の目的を達したと思われる事業あるいは行政効果が乏しいというふうな事業につきましては、今後とも見直しを行いまして、新たな市民のニーズに対応していくということが必要であろうというふうに考えております。

それから、歳入面でございますが、歳入の確保につきましては、国それから県における制度改正などを迅速かつ的確に捕捉をいたしまして、所要の財源の積極的な掘り起こしに努めてまいりたいというふうに考えております。

さらに、滞納しておられる方々に積極的に働きかけを行うことなどによりまして、収納率の向上を図っていくことが極めて重要であるというふうに考えております。私どもといたしましても、限りある貴重な財源を効率的、重点的に配分いたしまして、できる限り市民のニーズにこたえてまいりたいというふうに考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 いぶし銀のわざというか、先番議員が、質問というのはこうやるんだという見本を見せてくださりまして、いや、どうやって質問しようかと悩んでいるところなんですけれども、私、表現力がないものですから、幾つかの事例を挙げて、ちょっとお願いをしながら、場合によってはご意見を伺おうというふうに考えますので、よろしくお願い致します。

庁内で訃報って回りますよね、職員の皆さんの間。訃報が紙でいまだに——いまだにという言い方がいいのかどうか分からないんですが、回覧されているんですけども、僕はつきり庁内LANで訃報なんていうのは、ぱっと見れる環境が整っているものだと思っていたんですね。そしたら、いろいろお話を聞いていきますと、技術的には全然問題なくそういうことができるんですけども、実際にはパソコンの端末が1人1台になっていないものですから、結局は紙で回さざるを得ないという話がありました。紙で回さざるを得ないって、すごくむだだなと思ったので、これまたいろいろな話を聞いていったら、紙代がもったいないから、紙を半分に切って配るよというこらしい

んですけれども、その手間って、人件費に計算したら、結構なお金なんじゃないかななんて思いながら、その訃報の話をいろいろ聞いてきますと、結局、関係課というか、その課の職員の方のご家族なんかが亡くなったときには、大体 200 枚ぐらいだかなんか印刷をして、各課に結局は回すんだそうなんです。

それって、毎日同じ課で出ないから、紙の量としては大して大きな影響というのは見えてこないようなんですけれども、全庁的に計算したら結構な紙の量なんだろうなということを考えていて、そのことをまたいろいろ話をしていきますと、パソコンがやっぱり 1 人 1 台あることによって、いろんな効果が出るということを皆さんおっしゃるんですけれども、今までの予算の付け方が、例えば 100 要求すると、その 5 割だとか、8 割だとかという中途はんばな予算の付け方をされることによって、その効果が 100% 全く発揮できないというような事象があるように思います。

似たような話で、道路において安全確保のために結構な距離を安全対策をしようとして予算要望しても、細切れにされてしまうというようなこともあるようであります。結局、細切れなままの工事の進捗状況だと、安全の確保がなかなかできないというようなことがあるというような気がします。

それから、これもちょっと変だなと思っていたのは、この議会の場で多くの議員さんが要望や何かを出してなかなか実行されないことが、市政懇談会か何かで取り上げられると、途端に予算がついて行われてしまうというようなことがあったり、それから今年度で言いますと、えっ、何でこの予算が付かなかったのという、いや、南口がありますからといって、南口を隠れみのにするという、いろんな課の課長さんと話していて、いや、南口がありますからという予算を足していったら、南口の予算よりずっと多くなっちゃうんじゃないかというような気がするくらい、何か都市整備部長だけ責められちゃうというようなおかしい状況があるような部分も感じました。

先ほどのご答弁の中で、今度、新年度は中核市、それから保健所の設置があるということを行っているんですけれども、また、ここで中核市だからということで、本来必要なもの、あるいはほとんど予算を投入すべきところも、こういった理由づけで外されてしまうのかなという心配をしております。

先ほどまさに先番議員が、そのまた前の議員さんのご質問について大賛成だという話でありましたけれども、私も全くもって 100% 支持をしたいというふうに思うぐらい、小中学校の建て替えの問題というか、大規模修繕の問題なんかも、小中学校を回っているとまさにそういう現実を目のあたりにするわけでもありますけれども、こういうのも、例えばもうお金がないという話が出てきたり、それからいろんな話をしていく中で、僕

なんかはどっちかという、統廃合と複合施設という発想ぐらい持ちちゃってもいいのかなと思っているんですけれども、そういう統廃合なんていう話をすると、余った先生どうするんですかかなんかという話になりますので、僕は10年後ぐらいで、団塊の世代の方々がいなくなっちゃうところを見据えて統廃合を考えればいいじゃないかと思ってるんですが、統廃合して複合化をするなんてこともやって、乱暴な話ですけれども、あいた土地を売っ払っちゃえば、そのお金で何かできるということもなきにしもあらずかなという部分があって、工夫だとか、それからめり張りを付けて予算の編成をぜひしてもらいたいなと思っております。

めり張りという部分で、さっき言ったような隠れみのをつくっちゃって、そこに大きく予算が行っちゃうからということで、それこそさっきの話ではないけれども、子供たちの教育環境がおかしくなっちゃったりとか、パソコンなんかも1人1台にしちゃえばいろんな効果が見えるのに、中途はんばな整備の仕方をしているだとか、道路工事の細切れだとかという問題があったりとかって、何もかもが中途はんばな予算の付き方で、結局、さっきの道路の話じゃないですけど、あそこ危ないと言われて、えっ、工事していますよと言っても、途中で切れているじゃないかというおしかりを受けるようなことになったりというようなことが多々あるものですから、めり張りという部分で、何というのかな、先ほどの助役にお話をいただいた件というのは、もうそのとおりだと思うんですけれども、もう1歩ぜひ踏み込んでいただきたいなという気持ちがあるんですけれども、結局、こういう問題というのは、小さな問題の取り扱いにされてしまうのかどうかだけ、一言だけで結構ですけれども、ちょっと伺いたいなと思っておりますので、よろしく願いしたいと思えます。

[助役登壇]

●助役(砂川俊哉) それでは、再質問にお答えをさせていただきます。

大変難しいご質問でございまして、私どももいろいろな要望がございまして、それをできるだけ予算執行に反映していきたいと思っております。その順位づけというのがなかなかやはり難しいものがございまして、今道路を例に挙げられておられましたが、確かに私ども内部でもっと予算の集中投入というような形ができないかという議論もしてはおるんですが、なかなか皆さんが納得するような形で、ここに集中してという形が果たしてご理解いただけるかどうかというようなことも含めて、結局、結果的には総花的なものにならざるを得ないというのが、今の現状ではないかなというふうに考えております。

先ほどのような施設の統廃合といったような非常に斬新というか、そういった発想もこれからは必要になっていくだろうと思いますし、複合施設という意味では、西船橋の消防施設についても、そういった複合施設という形で、できるだけ土地を有効利用しようということで、今、私どもも考えておるといことはご理解いただければというふうに思います。

あと小中学校の修繕問題、大変重い課題をいただきまして、この辺もこれから15年度予算編成等にまた議論していかないといけないのかなとは思っておりますが、いずれにいたしましても、各部局からいろんな要望があるということで、それをどうやって、どんどん税収が落ち込んでいく中で、どれを優先していくかということが、非常にどんどん難しくなっているということをご理解いただきたいというふうに思っております。

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 ありがとうございます。

僕の表現力もないものですから、何か大変申しわけないと思っています。大変なことなんだと思います。それで、僕、お願いしたいのは、1つの事案に関しまして、関係するいろんな多くの事柄をいろんな面でいろんな視点でとらえていただきたいということと、若い職員の方をぜひ交えていただいて、多分若い職員の方って、一生懸命いろんなことに取り組んでいると、何かその予算が切られちゃったりすると、とたんにやる気をなくっちゃうということはないと思うんですけども、若い職員の方が納得できるような理由づけで予算を切っていただきたいというふうに思います。お願いしたいと思いません。

以上です。